

青少年を育てる 豊かな地域づくり

由良公民館長 藤本 秀雄

青少年の心身ともにゆたかな発達を願っている私たちに
とつて、現状はとつてしまふ。非行の低年令化・理由なき
自殺・殺傷事件など、実にうれづべきものがあります。
今年に国際児童年です。

今こそ児童問題について認識を高め、いま子どもたちがほ
んとくに幸せぬのかどうか、青少年が豊かに育つ条件づく
りはいかにあるのかなど、よく考えてみるればなりませぬ。
子どもはおとなの反射鏡、社会の反射鏡といわれます。
即ち青少年を育てる豊かな地域づくりをめざすことは、地
域社会や家庭において、おとながいかに生き生きと生活し
ているかが問われていることになるのです。

先日京都での研修会で講師の先生が、この問題について
次のような要旨のお話をされました。
子どもたちのために「住みよくなる地域づくり」の遺産
を残そう。

子どもはおとな社会の鏡であり、男おとなの背中を見て
人生の歩み方を知り、女おとなの口もとを見ておしやべり
接し方を知り育つと言われる。子どもの非行が多い時は、
おとなも展望の多め犯罪の多い生き方をしている時であ
る。

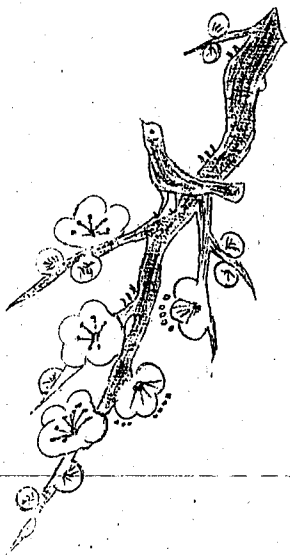
NO1

晴れの舞台だけに、その格調の高さ、深さに会場は魅いら
れた如く、シーンと静まり、いつ迄も強く余韻が残る。

市長も感激されたか「勇壮な郷土芸能の由良ゆりこみ太
鼓で開幕された」云々の御挨拶であった。
立派にこの大役を果された由良太鼓は、決野路自治会で
田中自治会長を始め有志の方々により、早朝より成人を祝
福するため、出演して頂いたのである。
由良太鼓が高く評価された喜びと同時に、決野路自治会
に厚く御礼申し上げます。

依って式は最後の記念撮影となった。
今年から舞台中央の一段目の雑段に、市長、教育長の面側
より左右に洋装の成人に座ってもらった。例年は
洋装の成人が和服の華やかさに圧倒され、顔も俯向き加減
で元気がなく、記念撮影も端の方に遠慮して並んでいた。そ
れを慮って、今年から中央に配置した。
従来由良公民館は由良婦人会と成人式の服装の簡素化を
訴えて来た。

此の度の英断に諸手を挙げて、歓迎と敬意を表します。
今年の成人式は真にすばらしかった。



る。住みよくなる町づくり」といふ言葉は従来からあるが、もつ
と主体的に各種団体、地域の参加する「住みよくなる町づく
り」を提唱したい。この前向きな生活力、活動力をおとな自
身が示すことが、将来の社会をなす子ども達に、残す遺産だ
と思ふ。

子どもたちは親の真剣に生きる姿を最もすぐれた教科書と
して学ぶと思ひます。

子どもたちのために「住みよくなる地域づくり」の条件整
備に、地域のみんなが連帯して取り組んでいきたいもので
す。

寄贈図書

「生と死を越えて」 決の路出身

田中二郎氏より

公民館所感

主事 平間克巳

今年度の公民館行事は全て終わった。特に印象に残った行事
は成人式であった。

式次第の担当は、市教委教務課で、官津会館で行われ、然
も厳肅な成人式は由良太鼓で開幕された。

一瞬、真暗闇の会場、突如正面舞台から勇壮な笛のリズム
に乗って、スポットライトが舞台中央の由良太鼓にタッチす
ると、大太鼓、小太鼓の阿吶の見事なパチ割き、「成人にな
った若人よ、ためらわず前進せよ」とばかりに、力強く打ち
まくる。

由良青年会の設立について 由良公民館

この度、自発的な発想から、由良青年会が誕生致し喜した
。心から御祝福申し上げます。此処に至るまで、単なる道で
はなかつたと思ひます。自ら悩み、苦しみのつ、そして青年
会の設立と結論づけられた事と拝察致します。

私達地区民は「暖く迎えて」「永い目で見守ろう」

そして私達は昔の青年団式の考えを持って、対処してはなら
ない。

未世的な犯罪世相に、純真に生きようとする青年会に、そ
の勇氣に、限りなき拍手を送りたい。

由良青年会の発起を思う

小松賢輔

今日の管理社会を想像するとき、それはひとり、ひとりの
自立性や創造性は抑圧されて、もはややりきれないといった
社会まで発展している。この間の目的のない、三菱銀行
殺人事件や児童、少年の自殺を思うにつけて、もはやこの種
の典型ではなかるつか。古い時代、特に戦前の社会は丁稚奉
公のように、若い頃からその道をたたきこまれるといった体
験を積み、今日のように先立って学問(思想)の世界は、ほと
要しなかつた。それは、今日の尺度では無鉄砲とさえ思える
が「体験」の中から「思想」を学び、再び「制度」化へと人
依存のものの上になり立つ社会であったように思う。

(支配の時代)

ところが今日、制度の上に乗っかって自主性や創造性が閉塞化され、マスコミや書物をみて学校や塾通いをするだけで「思想」が教えこまれ、そこから「体験」を見出す時代になってきている。「人間は規制を受けることになってのみ自由を持ちうる」という意見も確かであるが、この考えの弊害は大きい。上から固定化されたものを意に反してむりやりに教え込まれる時代には孤独な大衆(レジャー志向の大衆)や私的な生活防衛派(マイホーム主義の大衆)を生んできていることも事実である。いわゆる「我身さえよければ他人はどうなってもいい」という端的な社会がそれではないか。「制度」の中から「思想」を学び、その「思想」を通じて「体験」をよみとる物依存のものさしの上で成立した社会がここにあるように思う。(管理の時代)

だが「体験」と「教え込まれた観念の世界」との間に、ゲームが大きい程、ますます孤独な人間社会を作り出しはしないかと危ぶむ。何か一つの目標を持って作る喜びをかみしめながら生きようとする「観念の前に生活がある」とする昔の時代と「生活の前に観念がある」とする今の時代とを対比する時、今の時代には「孤独な個人の原型」しか見い出せないのではないかと思う。

この点から考えるに、民衆のひとり、ひとりが各人の及ぶ限りの自主的、自立的判断を見出し、サークル・レジヤ・スポーツ等何を取っても、皆と共に体験を通じて作る喜びを養う道が見い出せないものかと思う。

こんな意味からも由良に青年会を作り、若い人達が互いに親睦をはかりながら連帯をくむ姿が、この村にあってい

家庭と幸福

熊田熊一

我が国で昨年度中に自殺した児童生徒数は3355人あり一昨年から小学生の自殺者も十人位づつは増えた。なぜ死を急ぐのだろうか。

学業不振と厭世が主因というが私は其又元々家庭における、両親の養育態度が大きな原因になって居ると思う。家庭が平和で安住の地になっており、人間関係が孤独や自己主義にならず、年長者を尊敬し、若き者を愛する日本の伝統の家の平和が保たれておれば、自殺など出ないと思う。親が全然不構いであつたり、逆にきびしく干渉しすぎたりするの危険と思う。私は或るおばあさんから、若い人達が昔程年よりき大切にしないとなつたと家庭の不足をきかされたことがある。其時、私は終戦後の新憲法や教育が「君に忠に親に孝に」などと教えているが、あなたの家をけでなく、他の多くの家でも大切にされていないのだから、なぜそんな仕方がないかと締めて、自分は怒らぬようにし、而も子や孫は愛情を惜まず与える事こそ大切で、老人が魁して子や孫を愛すれば、やがて子や孫も老人を大切にしようになるのは必定と思うと言つてくれた。

子や孫も何れは老人となる事故、自分が親を大切にすれば子も亦、親を大切にすれば、粗末にすれば子は死付かぬまにそれを見做つていて、自分も粗末にされる理と思ひます。

尚家庭幸福の爲には、健康も大切です。現代日本人の病は美食のたばすぎと、運動不足、ストレス(心の緊張刺

いように思う。こんな青年会の発足の声が起つた時には、是非、若い皆様方の多数の積極的な参加を期待し、忘れざる青春の一頁として、その実り多くを心から念じるしだいです。(尚参考までに宮津市には次のような既存の青年会があります。日ヶ谷、里波見、須津、文珠、杉の木、銀ヶ丘、亀ヶ丘等の青年会)

参考文献

「個人と社会」作田 啓一
「戦後日本における個人と社会」
日高 六郎

ろばこん便り

○排水路の改善

1. 汚物を捨てない
2. 川底の次級物を掃除して除去する

○その他

1. 自衛消防隊について

○お断り

紙数の都合により、公民館をより前号記載した問題点の再検討の論議となり、割愛させて頂きます。

激等)が最ももので、私は心がけ次第で病気にはならないものと思う。大自然に順応する処に健康がある。

美食(肉類、卵、インスタント食品、有害物入食品、白米、白パン、白砂糖、白調味料、純白塩)の多食は日本人の体質には合はぬと言われれています。皆さん、自然に近い食糧をとり、よくかんで腹八分、自分の体力に合つて体を動かし、明るく、一家皆健康で、平和で、自殺者を出ない家庭でありたいものと思ひます。

図書館あんた

公民館の図書館は、公民館横の別棟にあります。市の出張所開所時間中なら、いつでもご利用になります。ご利用になる方は、出張所の係者をお申し出下さい。図書館には、いそ趣味の本や実用の本、また小説、随筆など六〇〇余冊を備へ、皆さんのご利用をお待ちしております。

最近、次の本を購入しました。ご案内します。

- 不安の時代に処す「藤原弘達、味の談話室」楠本憲吉
- 「親と子の発見」古木俊雄、ゆんかき忘れをよともたち「平井信義」母ありてこそ「生方をのぞく」「女人無限」岡部伊都子
- 「深代博郎エッセイ集」深代博郎、「研さん」堀「新田次郎」第三の女「夏樹静子」つゆもの賦(草燃える)原作(永井路子)「こおるぎ橋」住々木守、「火の航路」平岩三枝
- 「野のらば星あかり」住井すゑ「もう頬のえはのかない」見近典子「草履」瀬戸内晴美、「女の部屋」立原正秋「伸子」芥

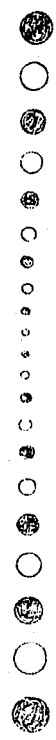
川黄俊賞作「高橋樞一郎」「天才画の文」松本清張「月次抄」竹田鹿子「小町盛衰抄」歴史散步私記「田辺聖子」「火の国の城」池波正太郎

◆投書のお答え◆ 由良公民館

公民館でカルタ会を催して欲しいとの御要望にお答え致します。御申越しのカルタ会を公民館が主催すれば、ベテランの集りとなり、あなた達の御想像の楽しいカルタ会にならなく失望されるのではないだろうか。

ですから、田舎の会のようにある程度の気の合うグループを造りカルタ会を催されたい如何ですか。会場については公民館を御利用下さい。

尚今後も御要望の事あれば、御本名を承り度く、今後は投書の御返事は致し兼ねます。 為念



◆私に想う◆

阿部桂子

梅も散り入冬卒業の時季を迎える頃となりました。私も五十才近くに成りまして雪かきしない冬など子供の頃から初めての冬でございす。本当に喜しい冬でございましてが色んな面で作物には余り良くないのではないかと思われす。最近是不況と言われ、台所をあずかる主婦としてあらゆる面で物の大切さや今迄の警沢な心を反省しなければならぬと思つたのです。家庭の主婦もそれ以外

▼秋風柘野▼

岩上松太郎

長州の維新史の中に脱退兵騒動というのがある。この騒動は戊辰の役後、これに従軍した長州の兵隊達を今流に言う召集解除したことに端を發して山口附近で起つた。

勤王精神に燃えて長い間生命を賭して戦つて来た兵隊達である。これを召集解除するに當つては相當の恩典を施すべきは当然である。

にも拘らず、藩主やおもだつた功臣達に行賞があつたのみで一般大多数の兵隊達には何等施されなかつた。特に高杉晋作の俗論を討伐時代から活躍した遊撃隊は藩当局の心証を害したこともあつて新常備軍編成に際しても極めて冷遇された。

このした事情から當時まだ解散してゐなかつた遊撃隊が先ず騒ぎ出した。藩の武器庫を襲つて兵器弾薬を掠奪し小郡宮などへ集結して氣勢をあげこれに同調呼応する者も加わつて、その勢力は千八百人程にもなり不穩な形勢となつた。

急報により、東京から参謀木戸孝允が鎮撫のため馳けつけたが、この時彼は「シッポばかり大きくては国家のため有害である」と漏らしたといふ。

かくて藩の領立方針は定まり精銳を以て編成した新常備をこれに當らしめた。つい先頃までその兵隊達と一緒になつて募軍と戦つて来た脱退兵隊は二日間をわたつて山口附近で血戦したが死傷六十人負傷者七十三人を生じて敗れ鎮圧された。明治三年二月五日のことである。

仕事をもち収入も増し生活の面では皆とこの家庭も豊かな暮らしに成り結構な事ですが、その反面、自分の事だけしか考えない人がふえてきているのではないのでしょうか。その熱心の悩みを持つ人が増えてきていると思われす。婦人会も、役か来るからやめると言われれる方もある様ですが、皆それ自身自分の心の持ち方一つではないのでしょうか。婦人会も地区の家役の様なもの、今迄お世話に成つてきた役員様の御苦勞もわからせて頂き、少なくとも地区の婦人会組織を通して、色んな人の中へ出させて頂く事も、自分に取つていろいろな勉強させて頂けるのではないのでしょうか。



更に指導者の三十六人は、捕えられ山口郊外杉野刑場にひかれて、首を討たれ死体は傍に深く掘られあつた古井戸へ投込まれた。
「殺死して走狗煮られる」を地で行く結果となつた。革命とか維新とかいう内乱にはよくこつた非情な事案が起るものであるが、この例は余りにも直接的で仕打ちの酷さが特異で印象的なので御紹介申し上げた次第である。

成人式に出席された方の紹介(敬称略)

(宮本)

牛田栄子、田中あつ子

(浜野路)

吉岡すみみ、谷雅子

船野祥子、大森登喜子

(港)

川崎紀子、大森章代

川崎照美、山田苗恵

(上石浦)

山下倫子、山下真理子